

ミサ前の祈り【能登半島地震で被災された方々のために祈りましょう】

震災で亡くなったすべての人を、あなたの安息にあずかせてください。

また、今なお不安と困難のうちに避難生活を送る多くの人に、力強いみ手を差し伸べてください。

心も体も疲れ果てた人々に、再び立ち上がる力が与えられますように

ミサのお知らせ (2024 年 4 月)

主日のミサ 4 月 7 日、21 日、28 日 (日) (10 : 30)

主日のミサ (ベトナム語ミサ) 4 月 14 日 (日) (15 : 00)

平日のミサ 4 月 4 日、18 日、25 日 (木) (10 : 30)

4 月 4 日は聖書の分かち合いはありません

4 月 11 日は平日のミサはありません

奈良ブロック

* コロナ後の典礼対応についてのお知らせです。

- ・聖体拝領について、以前のように司祭が「キリストのからだ」と唱えて授け、信者は「アーメン」と答える。
- ・聖堂入り口の聖水は当面の間使わない。

* 今年度の「聖書を学ぶ会」の講演会 (旧称：奈良ブロック聖書講座) (全 4 回) が 5 月 11 日 (土) 中川博道神父の講座からスタートします。全 4 回の申し込み締め切りは 4 月 28 日 (日) です。出来ましたらお帰り前にお申込み下さいますようお願いいたします。詳細は、掲示板をご覧ください。

大和高田教会

* ブルース神父様の送別会を本日 4 月 7 日 (日) ミサ後、教会ホールで行います。是非、参加ください。

* 出水神父様は 4 月 3 日高田教会に赴任されました。これから宜しく申し上げます。ミサの司式は 4 月 28 日 (日) 主日のミサからです。

* ミサ前に新しいミサ曲の練習をしています。教会には少し早めに着くようお願いいたします。

* 旅路 144 号、京都教区時報、心のともしび 4 月号などが個人ボックスに入っています。お持ちかえりください。

* Sr.ローマによる聖書の分かち合いは 4 月から木曜日のミサ後に変更となります。

4 月は 18 日と 25 日のミサ後となります。ご注意ください。

* 国際協力委員会からのお知らせとお願いです。政府が今国会において、永住者に対する在留資格取消し制度を含めた入管法改正案を提出、審議予定ということに対して移住連 (移住者と連帯する全国ネットワーク) は、2 月 9 日に反対声明を出し、反対署名活動を開始しました。国際協力委員会が署名のご協力を願いますので、ご理解の上宜しくお願いします。(2 回目は 4 月 30 日までです)

4月7日 復活節第2主日 ヨハネ20章19節～31節 トマスの疑いは不名誉なことなのか

復活の主日から第二主日までを「復活の八日間」といいます。復活祭の大きな喜びは八日間続き、その締めくくりが今日です。初代教会では受洗者が洗礼の際にいただいた白衣をこの日まで着けるので、白衣の主日とも言われてきました。また、教皇ヨハネ・パウロ二世によって、この日を「神のいつくしみの主日」と定められました。第一朗読、第二朗読は三年ごとに変わりますが、福音は毎年同じでイエスがトマスに現れる場面です。

先週の福音でイエスはまだ登場していないと書きましたが、今日は登場します。最初は弟子たちが集まっているところへ、そして次はその場になかったトマスがいるときに現れます。今日の福音の主人公はなんといってもトマスでしょう。あ、もちろんほんとうの主人公はイエスなのですが、大切な役割を果たすのはトマスです。しかし、トマスは「けっして信じない」と言い張り、八日後にイエスと出会ったときには「信じる者になりなさい」と言われます。このため、トマスは「疑い深いトマス」と不名誉な呼び名をもらうことになります。せっかくの復活節なのに彼は毎年イエスに叱られていますね。それどころか、7月3日の自分の祝日にさえもこの福音が読まれます。きっと天国の弟子たちの間では「ほらほらトマス、またあんたが叱られる場面が読まれとるで」「おらんかったし、しゃあないやんか！」などと会話が交わされているかもしれませんね。しかし、トマスはほんとうに疑っていたのでしょうか。自分もイエスに会いたいという気持ちが「けっして信じない」という言葉に表れていたのではないのでしょうか。

イエスは一方向的に弟子たちに教えを述べられたものではありません。弟子たちとの会話の中でそれに答える形で福音を、そしてご自分がだれであるかを伝えていかれます。四旬節第四主日の福音でイエスが語られた、ご自分の受難が神の愛によるものであるという教えも、弟子ではありませんがファリサイ派のニコデモの質問に対しての答えでした。

学校の授業で、よく「間違ふことによって憶える」と教えられた記憶があります。弟子たちもときには間違い、ときには理解できないことを質問することによって、イエスから教えてもらいました。今回のエピソードも、トマスの疑いにイエスが応えた内容だということになります。トマスが「見ないと信じない」と言ったからこそ、イエスは「見ないのに信じる者は幸いである」と、教会の信仰に続く教えを語られたわけですし、トマスも「わが主、わが神よ」というすばらしい信仰宣言をすることができたのです。

わたしたちもときには疑い、ときには間違い、ときには教えに反することをしてしまうことでしょう。けれどもそんなわたしたちに答える形で復活のイエスは語りかけてくださいます。その体験はわたしだけでなく、他の人にも喜びを及ぼします。ということは、トマスの疑いとイエスの叱責もけっして不名誉なものではなく、イエスの復活をあかしするエピソードなのです。天国のトマスは照れ笑いしているかもしれませんが。

(柳本神父)

